

若年認知症の家族会と支援者・全国のつどい

2010年2月21日（日）

日本青年館

若年認知症ぐんま家族会副会長
群馬県議会議員
大沢幸一

アピール文のとりまとめ（報告）

「若年認知症の家族会と支援者・全国のつどい」が、昨日・本日の2日間、全国23の家族会・支援者が、ここ日本青年館に集結され、熱い議論を行ってきたところです。

また、先ほど、厚生労働省 老健局 高齢支援課 桜井係長をお迎えしての全国のつどいは画期的なものであります。この全国のつどいを企画・実施していただきました「若年認知症サポートセンター」理事長・宮永和夫先生はじめ役員皆様に心から感謝申し上げます。

私共は、若くして不治の病に冒された家族の介護を通じて、文字通り苦悶の日々を余儀なくされています。苦悶の日々であっても「人間の尊厳」という重い課題と向き合って生きているのでございます。

昨日、午後からの代表者会議でアピール文の草案について、様々な角度から協議いたしました。「本人と家族が安心していきいき暮らせる社会の確立をめざす」ということを基調としながら、前文や各論について率直な意見が述べられたところです。とりわけ、高齢期と若年期（若年性）の質の違いを明らかにして実態をアピールする必要があるとの意見が出されました。この意見に引き続き、地方行政、特に市町村の理解度及び職員の意識の度合いについても指摘がなされたところです。このほか、様々な実態が報告されつつ、草案に手が加えられました。

この草案の修正案について、さらに本日午前9時30分から引き続き介護と医療、就労問題、経済問題、施設、地域支援や様々な制度等について検討、協議が行われ、成文化されたものが皆様のお手元に配布されたものでございます。

皆様方からすると、まだ様々なご意見があろうかと存じますが、まさに全国の家族会・支援者が共通認識を持って創り上げたものです。これだけ長文のアピールは他に例を見ないかと思われませんが、それだけ若年であるが故に深刻な問題が多いと言うことでございます。

このアピール文は国・県・市町村に向かってメッセージを発しているに留まらず、広く全国民及び報道機関に対して発信していることを深くご理解いただきたいと存じます。

先ほど、桜井係長より意見を聞かせて欲しい旨の有り難いご発言をいただきました。このアピールは私どもが日常生活の場を通じて叫んでいる生の声であることを受け止めていただければ幸甚でございます。

結びに、このアピールは当事者である私ども家族会・家族会員がそれぞれの地域で、この全国のつどいを次のステップとして主体的な活動を展開していくことを誓い合いたいと存じます。

以上、申し上げて、アピール文のとりまとめと致します。